

SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業

2019年度の「SDGs 達成のためのESD担い手育成事業」の活動はニュースレター5号～7号に掲載してきました。今年度をふりかえりますと、

- ①「ESD地域リーダー育成事業」(会場：船橋地区・成田地区)は、参加者：15名、ファシリテーター：石井雅章氏(神田外語大学言語メディア教育センター長・准教授)、2018年度ESD地域リーダー(11名)の総勢27名。
- ②「SDGsを進めるプラットフォームづくり」(会場：千葉市)は、参加者：28名、ファシリテーター：石井雅章氏 でした。



(出典：文科省 HP より)

2018年度・2019年度のESD地域リーダーが作成したESDの視点を入れた環境学習プログラムを実際に活用していくことで、参加者などが持続可能な社会を実現する行動へつながることを大いに期待しています。

さらに、SDGsを進めるプラットフォームの具体的な活動内容が見えてきました。2019年度の成果を2020年度の具体的な活動を展開していきます。

2019年度 ESD 地域リーダー育成事業 プログラム発表会 を開催しました

- 日 時 2020年2月3日 9:30～12:30
- 会 場 千葉市文化センター会議室
- 参加者 21名
- 内 容

船橋(千葉)・成田の2会場で3回にわたり実施されたプログラムづくりを経て、ESDの視点を入れた環境学習プログラムの発表会を開催しました。

この日の午後で開催される「ESD地域リーダーが活躍できるプラットフォーム」を考えるメンバーにも聞いていただき、一人10分間の発表でした。13の発表プログラムテーマは、とても多彩なプログラムとなりました。各プログラムの内容については次ページの一覧表をご覧ください。

発表後には参加者全員による質疑やアドバイスなどもいただき、参加者にとって次に繋がる貴重な時間になったと思います。

また、これらのプログラムを「ESDプログラムガイドブック 2019」として印刷製本し、県内環境行政担当などに配布します。更に、NPO環パちばホームページ(<https://kanpachiba.com/>)にも公開する、という主催者の提案を示して、プログラム作成者から承認が得られました。ぜひ次年度 ESD 地域リーダー育成にもご活用ください。

ESD とは

ESD (Education for Sustainable Development) とは、「一人ひとりが世界の人々や将来世代の持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」を言います。

具体的には、単なる知識の習得や活動の実践ではなく、日々の活動の中で『持続可能な社会づくり』を頭におき、そのために必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことです。

『持続可能な社会』とは、将来の子どもたちも含め、みんなが幸せに暮らせる社会です。各課題の構造(多様性、相互性、有限性)や、行動が備えるべき要素(公平性、連携性、責任性)を正しく理解した上で、その実現に向けて行動することが必要です。

あなたの取り組みをESDの視点でとらえてみましょう。

ESD の視点を入れたプログラム集 2019 (ESD地域リーダー育成事業 2019 年度活動のまとめ)

学習テーマ	地球温暖化・エネルギー		水環境	資源循環			
プログラム名	環境活動家グレッタ・トゥーンベリさんとめぐる”#未来のための金曜日“の旅	昔カレンダー「二十四節気」から学ぶ地球温暖化	浦安三番瀬をもっと知りたい!	アップサイクルで知るモノの価値	環境活動と市民活動のコラボ! 生ごみの堆肥化(ごみ減量)と地域のかかわりを考える(防災・町会活動・介護・仲間づくり・子ども食堂 etc.)	可燃ごみを減らそう! 生ごみたい肥化プロジェクト	紙博士になろう! ~調べて作って考える「私たちのくらしと紙」~
対象	中高生(最低6名)	小学校4~6年生(~40名)	小学生以上(2~20名)	小学校4~6年生(1クラス)	大人(10~20人)	ご近所住民(自治会)(5,6名)	小学校4年生(30名程度)
教科/分野 授業時間数	気候変動 3回(各3時間)	理科、社会、国語 45分(事前に作業あり)	理科、社会 80分~120分	総合的な学習 45分×2	ゴミ・資源循環 2時間	資源・ごみ 3回(単発でも連続でも可)	4年社会 4時間
場所	室内	教室	干潟(雨天時は学習室など)	室内	室内	集会所	教室、図工室などの特別教室
プログラムの特徴	グレッタ・トゥーンベリさんの活動を知ることで、気候変動(地球温暖化)によって地球が待たないの危機に瀕していることを理解し、何か具体的な行動を起こさなくてはという切実な思いを持つ。	二十四節気から、季節の移り変わりが自然環境と密接に関係し、自分たちの衣食住という生活の基本に影響を起していることを理解する。また、自然環境が今までとは違ってきていることを気づき、地球温暖化の影響が現実に取りつつあることを学ぶ。	三番瀬というフィールドで行うプログラム。生き物を採集するなど五感を使って体験することにより、より多くの気づきが得られる。	自分ごとにして貰う為、自らアップサイクルした作品に価格を付けて貰い、労働賃金と見合うか?どうかを検証する事でモノの価値の理解を深める。	環境活動が他の活動とつながる可能性を感じ、堆肥化(環境活動)を道具として使って何かできないかを考える。環境活動は、一つの行動で完結し多様な人々への関心が持たれづらい。そこでそれぞれの活動や関心のある事柄に結び付けるアイデアを出し合う。	・生ごみの排出を減らすことができる。(3Rの実践) ・住んでいる地域の自治会等と連携をしたり、将来的にサークル活動のように取り組める可能性がある。(コミュニティへの参加、活性化)	「紙」について掘り下げ考え、リサイクル工作(紙すき)としてカラフルなハガキを作ることが出来る。また、安全面、省エネ、地球温暖化防止についても学びを広げることが出来る。過去にあった製紙工場における公害について学び、環境負荷について理解する。
目標	①気候変動によって起きている地球上の危機を直視し(理解)、②その危機を自分ごととして捕らえ(納得)、③「何とかしなくては」と切実に感じ(共感)、④自分のできることは何かを考え、実際に行動を起こす。(行動)	地球温暖化を自分の事として考え、行動できるようになる。	海辺の生き物に関心を持つ。干潟の浄化能力を学習。干潟や浅海域の重要性を考え、環境保護の方法を習得する	学習者が簡単に安価で、安全に、安心に何でも手に入る裏側にある労働問題や環境負荷への実態を理解し、モノの大切さや短サイクルで手放すことにより生じる環境負荷の真実を理解する。	自分の関心ごとや得意なことが、どう世の中と関わっていきけるのかを考える過程を習得 生ごみ堆肥をできるようにする。 地域にある課題を解決する手段として、生ごみの堆肥化やその他の環境活動を取り入れることを学ぶ	・生ごみも自然界の一部であり、自然に戻るものだと実感できる。 ・家庭から出る生ごみを可燃ごみにせず、たい肥作りにチャレンジし楽しくできるようにする。 ・出来たたい肥を地域で活用し緑化やコミュニティの活性化に貢献する。	・身近にある「紙」について歴史や活用の多様さを知る。 ・紙すきを行うことで、紙が作られる過程や仕組みについて学ぶ。 ・再生し使う「資源循環」の大切さや、生活の中で自分にできることを理解する。
協力団体	ガールスカウト千葉県第12団	温暖化防止うらやす	浦安三番瀬を大切にす会	WAcKA	柏段ボールコンポスト研究会	環境パートナーシップちば	しろくまキッズ

学習テーマ	生物多様性			その他		
プログラム名	森林と私たち	1反歩からはじまる環	自然再生協議会委員が土木技術者に伝える自然再生地の使い方	防災からたどるSDGsの道	子どもたちの力を借りて地球を救おう! 子どもは世界を癒す、創造力の種	親子で学ぶ SDGs・ESD
対象	小学校高学年生(30名くらい)	小学生(最少3名)	土木技術者(20名)	小学4~6年生(中学生も可)(30名程度)	小学生(プログラムによって異なる)	小学生の親子(3年生以上)(20~40名)
教科/分野	自然教育と体験学習	生態系 循環型農業	技術者の継続的学習 自然環境	理科、社会	主体性を持った体験活動	環境保全・生物多様性
授業時間数	90分+90分+45分	毎月1回	4時間	45分間×2コマ(単発、連続どちらも可)	プログラムによって異なる	2時間×2日間
場所	酒々井町の小学校	谷津田にある休耕田	自然再生地 等	室内	室内・屋内 どちらでも	八千代市農業交流館及びぼたるの里と近辺
プログラムの特徴	実際に色々な森を体感し、その成り立ちと知識として持っている森の概念との比較を行う。また、どのような森が、いて心地良く癒し効果があり、どのような森が心地よくないかも体感でき、なぜだろうと考えるきっかけとする。	子どもたちが自然観察をしながら、周りの生態系を知り、生き物の様子から気候変動を知り、自分たちと自然の関りを感じながら学ぶことができる。	場所は自然再生推進法に基づく区間で、資料が整っている。受講者にはメリット(継続的学習のポイントが付与される)がある。	防災と地球温暖化の問題を結びつける手立てを「身近な生活の中で備えること」と考えた。災害を予測し普段から備えようとする意識は、未来の地球環境の変化を予測し悪化を食い止めるために、一人一人が現在の暮らし方を見直すことに通じるものとする。	・結果を求めず、プロセスを大切にする。 ・活動の出口を定めず、体験者の求める方向性を支援し実施へと導く ・話し合いや活動するにあたってのルールづくり等も体験者どうしで決定していく	身近な事柄からでなく壮大な事項から学ぶことで視野が広がり目標がもてる。 ・掘り下げをすることで、身近な事柄の大切さに気付く。 ・自分で考え、人の意見を聞く(グループワーク)をする。
目標	・森林の成り立ちの基本的な知識を習得する。 ・人工林、里山林、天然林、荒れた森林を散策してその違いを体感。 ・感じたことから、森林に対して自発的に考え、行動するキッカケを作る。	休耕田・耕作放棄地の現状を理解する。また、自然農を通して虫や動植物との共生、自然の移り変わり(遷移)を学び、変化していく中で自分たちが未来へ何ができるのか学習し考える時間となる。	河川法では治水、利水に環境を加えて、三本柱となっていることを学ぶ。工事内容と自然との理解を深める。 ・工事によって自然が減る事の再確認 ・工事施工中の自然への配慮 完成後、自然が減少していないか、完成後のアフターケア(ハード・ソフト)	災害に備える工夫を知り、自分ができることを見つけられるようになる。 気候変動により引き起こされる災害に関心を持ち、その理由を考え、さらに、地球環境のよいサイクルを生み出すために自分のふだんの生活の中でできることを見つけ、実践できるようにする。それらを、他の人たちにも伝えられるようになる。	・自分も地球の一部だという感性を育む。 ・主体性を持って社会に貢献できるよう、自ら行動に移す。 ・自己肯定感、他者を思いやる心が育つ。 ・自分の思いを伝えることができ、自らの成長を感じることができる。 多様な人に関わることにより、多様性が育ち、視野を広げることができる。	ESD, SDGsのお話を先ず聞くことで、自分事として、出来ることを考えるようになる。 自然環境をはじめいろいろな事に興味を持つようになり、さまざまな取り組みを知ることで他者(先人)の取り組みを理解する。 ・何かできる事を自分で考え、学習する事で大人は取り組みを理解し、子どもは小さい時から日常の事とする事で学びが身に付き、後の社会参加となる。
協力団体	酒々井里山フォーラム	成田おむすびプレーパーク	霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎自然再生協議会	ガールスカウト千葉県第63団	一般社団法人ふろしき研究会千葉支部	八千代市ぼたるの里づくり実行委員会

SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業

2020 年度(3年目)事業参加者募集は 5 月から始めます

SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業は3年目の事業を実施します。2018年・2019年の事業実施を基に、3年目は千葉県内の南部地区で展開します。

2020年度の事業内容は以下の予定ですので、①ESD地域リーダー育成事業 ②SDGsを進めるプラットフォームづくりに参加ご協力いただける方(団体)の募集を5月から始めます。ご希望の方は、是非ご連絡ください。SDGs達成のために一緒に活動しましょう!

■開催目的

現在活動している団体や個人の方などが参加し、既にお持ちの環境学習プログラムを、ESDの視点を取り入れたプログラムに見直す作業を通して、お互いに育ち合い千葉県内に地域 ESD リーダーを育成していく活動です。

この担い手が、活躍するための場(プラットフォーム)についてさらに協議していきます。

■事業内容

事業活動は、以下の3事業を実施します

- ① ESD地域リーダー育成事業
- ② SDGsを進めるプラットフォームづくり
- ③ 情報の収集と発信



≪3年目事業≫ ※事業は6月からスタート予定です。

千葉県を南北2つの地域に分け、3年目は南部地域(おおむね市原市以南)で事業を実施します。

- ① 人材育成事業: 2地域ごとに3回連続開催 参加者: 各10人(2地域)
開催場所: 2か所(市原・南房総)

内容: 1、2年目に作成したモデルプログラムを参考に、ESDの視点を入れたプログラムを作成します。

ブラッシュアップ事業: 1、2年目のモデルプログラム実施の場「公開講座」を設け、実施後のアンケート等のふりかえりによってプログラムの改良等に取り組みます。

- ② プラットフォームづくりの検討

・1、2年目の協議の結果を踏まえ、プラットフォームの基盤づくり・運営等を協議します。
参加者は、1、2年目のメンバーに南部地区の方も加わっていただきます。

・SDGs、ESDの理解促進を目的に先進的に取り組んでいる企業・団体の活動紹介やセミナーなどを開催し、プラットフォームのすそ野をさらに広げます。

・プラットフォームづくり開催: 年3回 参加者: 各30人 公開セミナー2回開催

発行: 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば <http://kanpachiba.com/>
お問い合わせ: e-mail: info@kanpachiba.com Tel: 090-8116-4633

この事業は、地球環境基金の助成を受け実施しています

